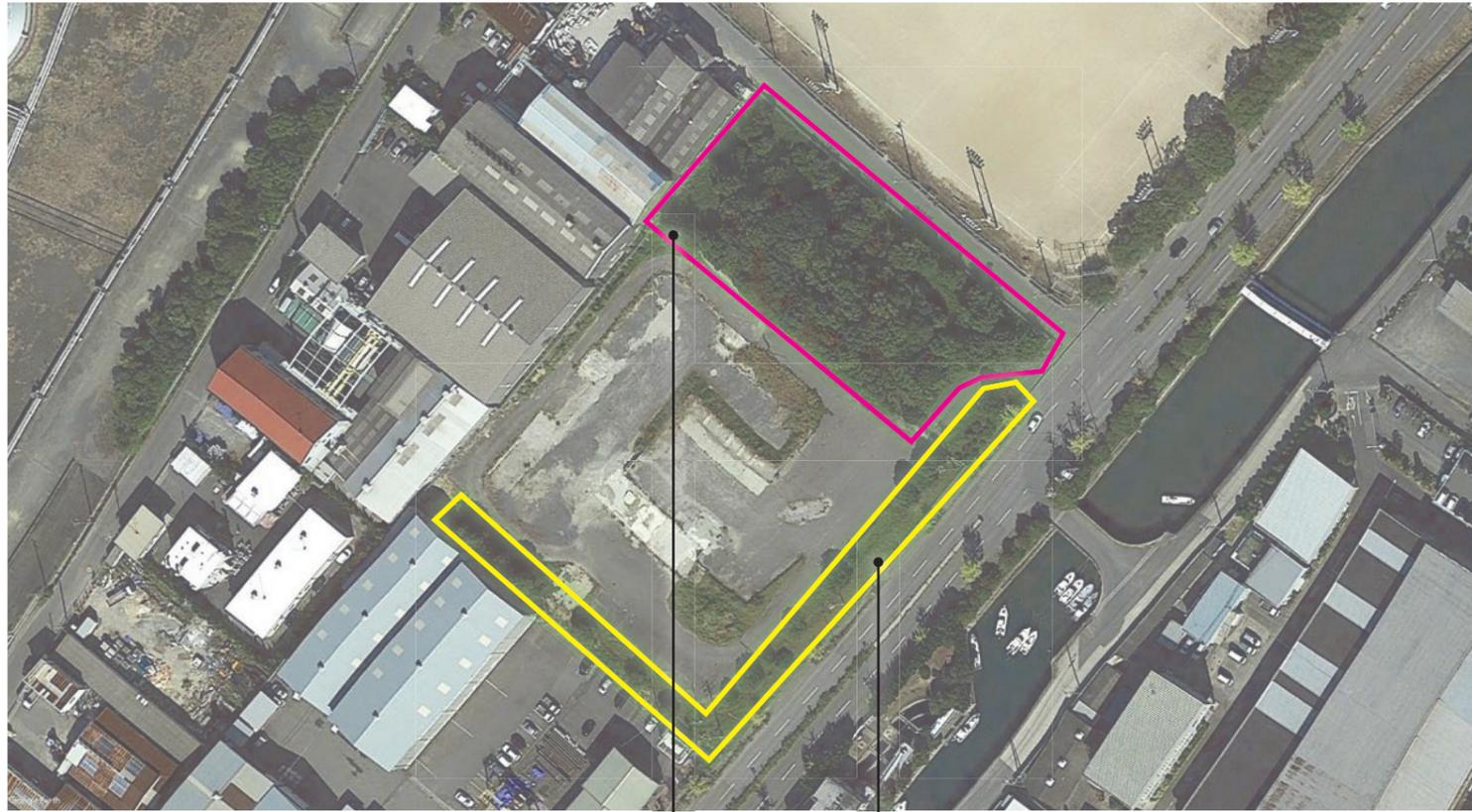


緑地の少ない市街地においてまとまった緑を提供している緑地群

敷地内の既存林を残置することで、段階的に緑に包まれるようなアプローチの形成が可能



常緑樹を中心とした樹林。高木層は 10m 以上に成長し、植栽密度も高くほぼ極相林化している。
 防火、防風、大気浄化などを効果を意図した工場緑地としては十分な機能を発揮しているといえる。
 しかしヒラドツツジやトベラ、ヤブツバキやキョウチクトウなどの、当初低～中木として植えられた常緑樹木が成長し樹高 2～5m の中～高木として生い茂り、林内の見通しと風通しを遮っている（藪を形成している）。

道路沿いは常緑高木が植えられており、一部の高木は大きく成長しているが、まばらに植えられており、また中・低木の植栽が見られないため、敷地の内外から見通しのある状況となっている。

